

奈良女子大学附属図書館第22回図書展示

2011年10月～2012年3月 生活環境学部

奈良女高師の被服デザイン教材 - 意匠図案集 -



今回の展示では、奈良女子高等師範学校で被服デザイン教材として用いられていた、京都と東京で発行された図案集を展示します。明治維新の後、工芸の産業化や西洋化により、染織、陶芸、漆に施されるデザインや図案は重要な位置を占め、図案家という職業が確立されました。こうした時代に、東京遷都後の京都では官民を挙げて、産業や工芸の近代化に力が注がれました。この時代に京都で活躍したのが日本画家の神坂雪佳〔慶応2(1866)～昭和17(1942)〕です。少し遅れて東京で活躍したのが洋画家の和田三造〔明治16(1883)～昭和42(1967)〕です。二人の共通点の一つは渡欧経験であり、それを糧にそれぞれ図案の世界で活躍しました。

神坂雪佳は京都生まれ、明治14年に16歳で鈴木瑞彦に師事して日本画を学び、同23年には岸光景に師事して意匠図案の指導を受けます。同34年に、イギリスのグラスゴー万国博覧会の見学を兼ねてデザイン視察で渡欧、日本の優れた装飾芸術を再認識しました。その後、『染織図案海路』、『滑稽図案』、『蝶千種』、『百々世草』などを刊行しました。図案指導の活動としても、京都市立美術工芸学校の教諭として、また、美術工芸研究会の佳美会を創立し、改称しながらも長年に渡って工芸界の意匠発展に尽くしました。雪佳は昭和17年、77歳で嵯峨野に没しますが、近代を通じて関西の染織業界に多大な貢献をしました。



神坂雪佳 肖像

和田三造は兵庫県出身。父や教師の反対を押し切って画家を志し、16歳で上京。黒田清輝に師事し、東京美術学校（現東京芸大）に進み、明治40年の第1回文展では『南風』が最高賞に選ばれました。第2回文展でも最高賞に選ばれ、同42年に文部省留学生としてヨーロッパに渡り、フランスを中心に各国を巡遊しました。その帰り、インドや東南アジアで東洋美術を研究。帰国後はデザインと色彩研究に進み、日本色彩研究所の前身である日本標準色協会を設立して、日本における指導的色彩研究者としても多くの成果を挙げました。

今回の展示では、京都で発行された「着物図案集」と東京で発行された「創作図案集」を展示します。

1. 奈良女高師発足の年に発行された着物図案彩色木版本

第1ケースに、本学が発足した明治41年（1908年）に印刷、発行された着物図案集（彩色木版本）「徒屋姿」を出展します。明治・大正・昭和の染織業が栄えた時期には、多くの染色図案家が輩出しました。「徒屋姿」の著者は伊藤亀次郎意匠部となっており、印刷兼発行者は芸艸堂です。芸艸堂は、明治24年に創業した老舗の美術出版社で、多くの木版による図案集を手掛け、近代京都図案に貢献しました。芸艸堂美術書目第十三（明治42年発行）によりますと、「徒屋姿」は「京都伊藤呉服店意匠部にて懸賞募集せし図案幾多の中、其の清新優雅なるもの一百を選抜し旋すに精密流麗なる色彩を以てし、一度巻を繙けば異彩津々其の趣致の豊富なるにおどろかれむ、之れ本書の特色なり」とあり、一と二の2冊に収録されています。解説等はありません。

木版摺図案集は、画家や図案家の原画に基づき、彫師が板に彫り、摺師が色を摺り重ねます。発色のよい顔料を用い、手間をかけて一枚一枚和紙に摺られます。微妙な色味を醸し出した版画は和綴りで製本され、仕上げられました。その一冊一冊を繻くと、色彩の美しさとともに見事な配色調和、そして現代にも通じる斬新なデザインに驚かされます。

「徒屋姿一」の第1ページは、明治末期の京都で活躍し、多くの図案集を残した古谷紅麟 [明治8(1875)～明治43(1910)]の美人画で飾られています。紅麟は滋賀県生まれ。京都に出て鈴木万年に絵を師事し、明治25年から図案を神坂雪佳に学びました。同29年の第2回新古美術品展覧会に指物図案で入賞します。この時すでに紅麟の号を用いており、早くから光琳に対する憧憬が強かったようです。その後も新古美術品展覧会に出品して賞を重ね、審査員となります。同33年に京都市立美術工芸学校の嘱託技師として雇用され、38年に同校の助教諭となります。紅麟は早くから図案集の編集に携わり、『松づくし』、『伊達模様花づくし』、『竹づくし』、『梅づくし』、『扇面図案とこなつ』、『はな筏』、『写生草花模様』、『こうりむもよう』など多数の出版がありますが、突然の病に倒れて36歳で夭逝しました。

2. 着物裾模様図案集「競美」

「競美」は京都の安藤合名會社意匠部が発行した着物裾模様図案集で非売品です。発行年は不詳ですが、古谷紅麟の生涯の師でもあった神坂雪佳が同店に乞われて序文を記しています。その中で雪佳は「図案の誇るべきものは徒に形象の整頓と色彩の豊麗とにあらずして、寧ろ其の形象や色彩に托して、人間品位の光と匂いとを感受せしむるに在り」と述べています。「競美」も応募作品の中から特に優秀なものを選抜して冊子としたもので、雪佳が「安藤合名會社の図案界に一新機軸を出さんとする抱負」を高く評価していたことがわかります。東京遷都後の京都において、伝統産業の存続と近代化のために懸命に努力していた人々の姿が見えてきます。

3. 和田三造の創作図案集

第2ケースには、大正14年、同15年に東京で発行された和田三造製作兼編集による創作図案集1～12を展示します。また、これらを1冊の本に美装して、昭和7年に出版されたものも同時に展示します。

今回の展示図書は、奈良女子高等師範学校で被服デザイン教材として用いられていたものです。これらにかかわった近代日本の意匠図案家の作品は、たとえば雪佳の「雪中竹（竹に雀）」が2001年にフランスのエルメス社の広報誌の表紙を飾り、巻頭の記事になるなど、現代人にも新鮮な「光と匂い」を放ち続けています。今回の展示がこれらの図案家に出会う契機となれば幸いです。

展示品

第1 ケース

「徒屋姿」一、二 伊藤亀次郎意匠部 芸艸堂 明治41年発行
「競美」 安藤合名會社意匠部 非売品

第2 ケース

「創作図案集」1～12集 和田三造製作兼編集 大正14-15年
「創作図案集」 和田三造製作兼編集 昭和7年

パネル展示

「徒屋姿」一より 古谷紅麟美人画（複製）
「徒屋姿」一より 作品 壺、式、参（複製）
「徒屋姿」一より 作品 四十六、四十七（複製）

